

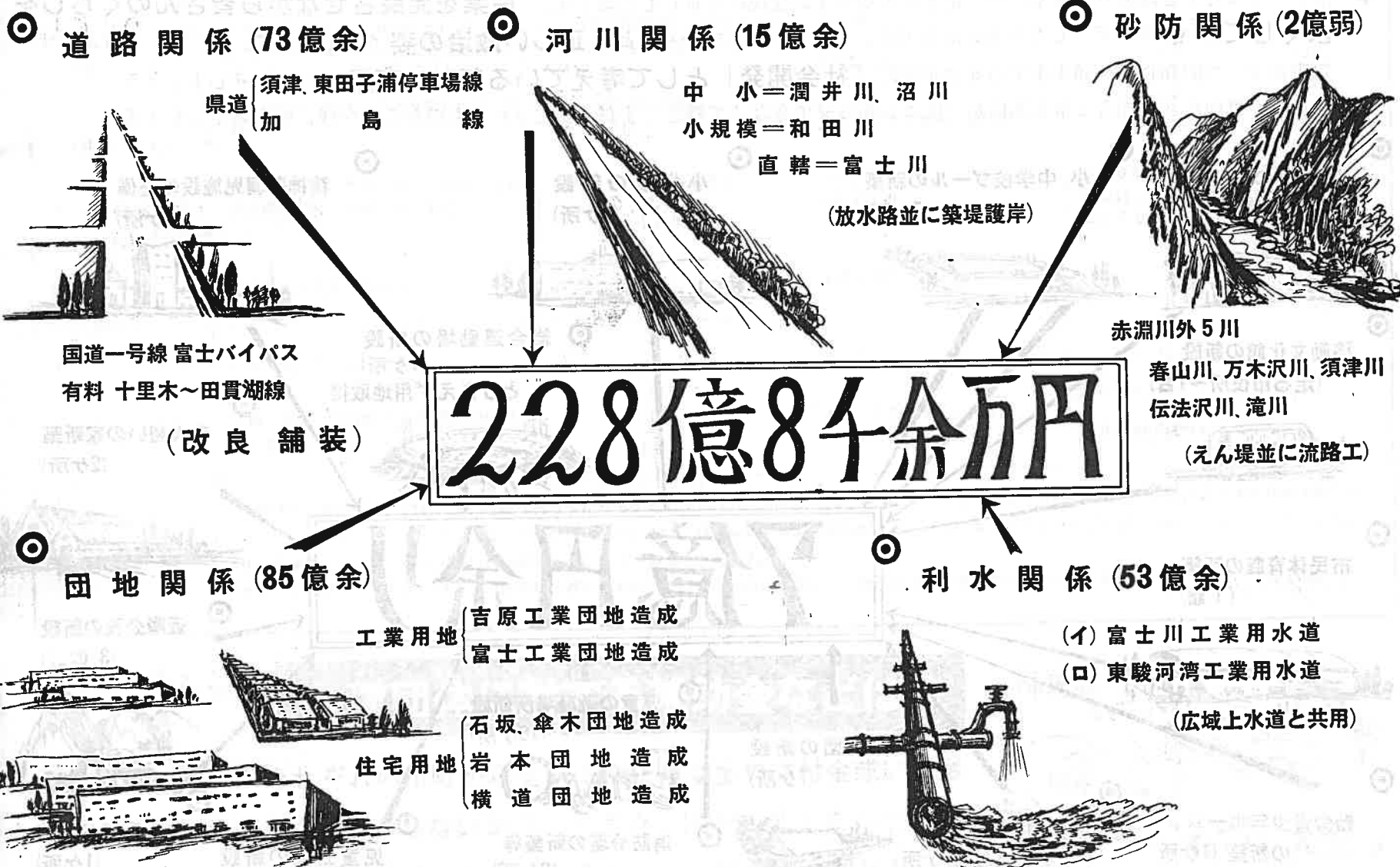
工特地域基本計画の主要事業とは？

この地方は、まえに「工業なんか？…」というひどくむづかしい名前の地域に国から指定

されたと聞いていたが、それがいつたいどんな利益をもたらすのか？…またどんな関係が生じるのだね？…

- ◆ はい！……おつしやる通り、とても長い名前で「東駿河湾工業整備特別地域」になったわけです。結局、国、県などが多額のお金をつぎこんで立派なまとまりとして育ててゆこうとするわけです。ですから、**国や県の考えていることを私達が十分知っておく必要**がありますし、その考えていることと、**実際の住民のくらしというものをしつかり結びつけて、正しく伸ばしてゆく**ようにしなければならぬわけですね。

この工特基本計画で、2市1町に関係している**主な事業が決定**しておりますが、前期の計画分として昭和45年までの内容をお示しすると次の通りです。



なるほどね！…しかし、こんな事業も名ばかりで、いくら国や県が「やる」といつても「地元の市が相当な負担をしなければやってくれない」ということをよく耳にするがどうかね？ それに、こんなにびつくりするような工事費では、いくら新市でも負担はしきれまい？……

- ◆ ご心配はごもつともです。しかし、この事業はその心配はありません。実は「工特地域」として指定されたとき、国と県が**地元岳南の熱望している事業を参酌**して相談がまとまり、昭和39年～50年までに実施することに決定された事業なのです。これを前後の2期にわけて実施されるわけですね。ですから、**工費のほとんどは国、県或は公団などがお金をだし、前期分の昭和45年までの間で、地元の市町が負担することにきめられている額はわずかに5,740万円しかありません。**つまり、数年間でこれだけですから、**1年間2,000万円**にもなりません。そして、これらの事業は、既に一部が着手され進捗がみられています。

なるほど！よくわかったよ！…市だけの力ではできないものを、国や県がやってくれるのだから地元にとって大きな福音だね。

しかし、これと「合併」と、どういう関係があるのかね？

- ◆ こういう大きな仕事も、将来、この地方が立派に育つていくことが予測されるからで、こうした時の流れ、進歩というものを、私達がいままでの小さい殻の中の狭い考え方で腕をこまぬいていたとしたら、いつたいどうなるのでしょうか…それこそ**時代にのりおくれて、暮しく**

なることを待つようなものです。やはり、一方の進み方にある、高く、広い考え方、見方で、皆さんのこれからの暮らしについて真剣に取り組むため「合併」する必要があるわけです。そして少しでも地域的な格差をとりのぞくべき時期がきているといえましょう。

訂正…合併広報3号でお知らせした固定資産税摘要欄の「免税点」は、法律の改正により、現在
土地—80,000円以下
家屋—50,000円未満
償却資産登録価格—300,000円未満
となりましたので、訂正いたします。

工特の事業……(約230億円)

